

# 議題 1

## 青少年交流事業の開催結果について（報告）

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 1 「青少年国際平和未来会議2023（第19回）」開催結果       | 3 |
| 2 「2023広島市・大邱広域市青少年交流事業（第22回）」開催結果  | 5 |
| 3 「令和5年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第45回）」開催結果 | 7 |

「青少年国際平和未来会議 2023（第19回）」開催結果

1 目的

広島市の姉妹・友好都市等の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え、意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深めるとともに、広く世界の国々の青少年に核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図る。

2 主催

青少年国際平和未来会議実行委員会

（構成：広島市、広島市教育委員会、（一社）広島国際青少年協会、（公財）広島平和文化センターほか）

3 期間

令和5年4月16日（日）～11月19日（日）

（派遣期間：令和5年5月20日（土）～5月29日（月））

4 開催地

ドイツ連邦共和国 ハノーバー市

5 参加者

28名(7か国8都市)

広島市

5名(大学生4名、大学院生1名)

姉妹・友好都市

ハノーバー市(ドイツ)

その他の都市

バンコク都(タイ)、ブランタイヤ市(マラウイ)、プリストル市(英国)、ライプツィヒ市(ドイツ)、ポズナン市(ポーランド)、ルーアン市(フランス)

6 年間の取組

区分	日程	主な内容
事前研修会①	4月16日(日)	自己紹介、アイスブレイク 講話「青少年国際平和未来会議の歴史と主旨」 講話「世界の街角から、新たなコモンズとは2023」
事前研修会②	4月23日(日)	講話「<原爆>広島を継ぐ被爆ピアノ」 平和記念資料館見学
事前研修会③	4月30日(日)	被爆体験講話、講話「ハノーバー市との交流の歴史」 広島VRについて、慰霊碑黙とう、献花
事前研修会④	5月7日(日)	語学研修(グループディスカッション) プレゼンテーションリハーサル
市長訪問	5月9日(火)	団員代表挨拶等
ハノーバー市 未来会議	5月20日(土)	広島市→ハノーバー市(移動)
	5月21日(日)	歓迎会、アイスブレイク [5/21～5/22 キャンプ場泊]
	5月22日(月)	チームビルディング活動 各都市プレゼンテーション(平和活動について)、 ディベート活動、開会行事、関連団体等との交流
	5月23日(火)	「広島ハイン」等訪問 [5/23～5/27 ホテル泊]
	5月24日(水)	講演、市長訪問、原爆をテーマにした美術作品鑑賞など
	5月25日(木)	ICANワークショップ、共同宣言文など作成
	5月26日(金)	共同宣言文など作成・発表 閉会式、さよならパーティーなど
	5月27日(土)	振り返り、市内散策など
	5月28日(日)	
	5月29日(月)	ハノーバー市→広島市(移動)
事後研修会 ①～③	6月17日(土) 7月6日(木) 7月23日(日)	振り返り 「ハノーバーの日」での活動報告の準備など
事後活動	8月6日(日)	平和記念式典参列、「ハノーバーの日」での活動報告
事後研修会 ④～⑥	10月11日(水) 10月21日(土) 11月4日(土)	「国際フェスタ2023」での活動報告の準備 広報活動に関する話し合い
事業報告会	11月19日(日)	「国際フェスタ2023」での活動報告 ヒロシマ平和未来大使委嘱状(修了証)の交付と振り返り

## 7 成果

- ・ 4年ぶりにオンラインではない対面での会議の開催となり、野外活動施設でのチームビルディング活動などを通して早期に打ち解けることで、参加者同士の友情と相互理解を深めることができた。
- ・ ICANのワークショップなど様々なプログラムに参加する中で、参加者それぞれが核兵器廃絶や平和の大切さについて様々な角度から考えるとともに、世界恒久平和構築のためにディスカッションを行い、国籍、価値観などの違いを認め合いながら共同宣言文や作曲、美術作品の作成に取り組み発表することにより、全員の世界平和への意識を高めることができた。

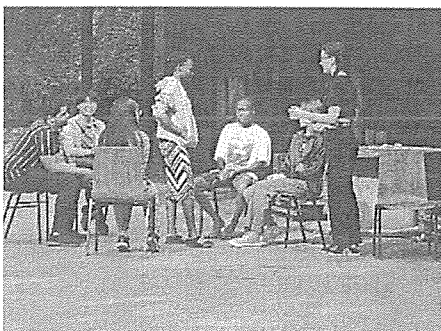
## 8 課題等

- ・ 過去の参加者も含めて継続的に平和の実現に向けた活動ができるよう、参加各都市のホームページに会議の活動内容などの掲載を依頼するとともに、参加者に各自のネットワークを通して拡散を依頼するなど、発信力を向上させる必要がある。
- ・ より多くの平和の意識が高い青少年に参加してもらうことが重要であるため、具体的な活動内容を本市ホームページなどで紹介するほか、各学校にも周知していく必要がある。また、本市で会議を開催する際には、中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」のメッセンジャー等に交流活動に参加してもらい、青少年国際平和未来会議について理解を深めてもらう必要がある。
- ・ 令和6年度は、広島市で開催する予定としており、より多くの海外都市の青少年に参加してもらえよう呼びかける必要がある。また、事前研修や事後研修にオンライン交流などを取り入れ友情と相互理解を深めながら、受入期間中も被爆の実相を伝えるプログラムなど、世界平和への意識を高めることができるようなプログラムを計画する必要がある。

## 9 参加者の感想

- ・ 被爆者の方々の高齢化が問題視される中、貴重な被爆体験講話を聞かせていただくことができ、ドイツに向けて良い学びをすることができました。私たちに向けて伝えてくださったメッセージや願いを市の若者として、しっかりと他都市の若者へ伝達できるよう、準備をしたいです。(大学3年生 A)
- ・ 広島市とハノーバーの姉妹都市提携40周年という記念の年に、IYCPFでハノーバーに行き活動できたことを光栄に思っています。共にハノーバーで活動した仲間たちと国籍を超えて繋がりを築き、多くのことを吸収することができました。この仲間たちと今後も連絡を取り合い、平和の輪を広げていきたいです。(大学4年生 B)
- ・ 世界の人たちと交流することは今まで自分が知らなかった価値観や考えが知れるだけでなく、それに対して今までの自分がどうであったか、またこれからどうするべきか、自分を見つめ直すきっかけになる、非常に重要なことであると感じました。今回の会議参加で学び、感じたことを無駄にしないようこれからの自分の学びにつなげていきたいです。(大学2年生 C)
- ・ 被爆ピアノは見たことがなくて、傷がすごいし、まだ弾けるといのがすごいなと思いました。またピアノに人種などは関係ないという言葉があったけれど、全員に伝える表現方法の1つだなと思いました。(大学2年生 D)
- ・ この都市がもつ第二次世界大戦の記憶はさながら、昨今の国際情勢とこの都市の地理的要因も相まって高まる「戦争」や「核兵器」に対する否定的観念を参加者同士で共有できました。  
私が会議参加を通じて得た知見は、平和の輪の拡大のための持続的な会議の開催、姉妹友好都市間の交流の促進に活かし、貢献していく所存です。(大学院生 E)

### 《活動の様子》



チームビルディング活動



ICAN ワークショップ



閉会式での共同宣言文発表

## 「2023 広島市・大邱広域市青少年交流事業（第22回）」開催結果

### 1 目的

広島市の青少年が姉妹都市である韓国大邱広域市の青少年との交流を行うことにより、本市と大邱広域市の青少年の相互の友情を深めるとともに、世界平和への意識を高める。

### 2 主催

広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会

（構成：広島県日韓親善協会、広島市教育委員会、広島ユネスコ協会、NPO 法人友愛アカデミー）

### 3 期間

令和5年6月18日（日）～11月19日（日）

（派遣期間：令和5年8月11日（金）～8月14日（月））

### 4 開催地

大韓民国 大邱広域市

### 5 参加者

広島市 19名（青少年16名（中学生4名、高校生12名）、指導者（通訳含む）3名）

大邱広域市 23名（青少年16名（中学生10名、高校生6名）、指導者（通訳含む）7名）

### 6 年間の取組

今年度は、広島市から大邱広域市に青少年を派遣し、交流活動を行った。

区分	日程	主な内容
結団式	6月18日(日)	主催者・団長・団員代表挨拶、自己紹介 オリエンテーション
事前研修会	7月2日(日)	日本・広島を学ぼう伝えよう、ロゴを決めよう
	7月16日(日)	韓国・大邱広域市のことを知ろう、韓国語講座
	7月30日(日)	体験者(OB組織)の話を聞こう、パフォーマンス練習
市長訪問	8月7日(月)	団員代表挨拶等
大邱広域市 交流活動	8月11日(金)	広島市→大邱広域市(移動)、親睦会
	8月12日(土)	文化体験、博物館見学、航空系大学訪問、 「国際青少年デー」記念イベント参加
	8月13日(日)	エキスポ大公園、イーワールドでの見学・体験
	8月14日(月)	大邱広域市→広島市(移動)
解団式	9月3日(日)	主催者・団長・団員代表挨拶、団員感想発表
事後研修会		交流事業の振り返り、事業報告会について
	11月11日(土)	「国際フェスタ2023」に向けての準備
事業報告会	11月19日(日)	「国際フェスタ2023」にて事業報告

### 7 成果

大邱広域市での交流プログラムは、文化体験、航空系大学での韓国の最先端技術見学など、青少年が楽しみながら学習できる活動が多岐にわたり計画されており、参加者にとって貴重な体験となった。両市青少年が4日間寝食をともに生活しながら活動を通して学ぶことで、相互の友情がより深まった。

- ・ 8月12日の「国際青少年デー」記念イベントにおいてスピーチやダンス披露をすることで、来場していた大邱広域市民とも交流を図ることができた。

## 8 課題等

- ・ 令和6年度は、大邱広域市青少年を受け入れる予定であるが、大邱広域市と連携しながら、青少年の受入期間だけでなく事前研修や事後研修でも交流できるようオンラインによる交流などを取り入れる。また、受入期間中は体験活動に重点をおいて、両市青少年が相互に友情を深めるとともに平和への意識を高めることができるようなプログラムを計画していく必要がある。
- ・ 参加者が事業終了後も継続して交流活動が行えるよう、OB組織の情報提供を行い、次回以降も交流事業に関わっていただけるようにするとともに、OB組織メンバーが自主的に交流活動を企画できるよう支援を行っていく必要がある。

## 9 参加者の感想

- ・ 私がとても印象に残っていることは、たくさんありますが、バスの中でみんなで1つになって歌を歌うことができたことです。その時私は、「言語の違いなんて関係ない」「つながった」と実感して、思わず涙がこぼれました。  
この活動に参加して私は自分の道を広げることができ、自分の武器をたくさん増やすことができました。また、ほかにも韓国に行くことができる活動に応募したので、この活動での経験を生かしていきたいと思います。(高校1年生 A)
- ・ この交流事業での経験を、必ず今後の国際交流活動に活かしていきます。来年からこの交流事業に直接参加することはできませんが、OBとして、次に参加する人達のサポートをしていけたらと思っています。(高校3年生 B)
- ・ 「幸せ」という感情を私はこの活動で数えきれないほど味わいました。日本を飛び出して韓国へ足を踏み入れるまでにも多くの「幸せ」を感じてきましたが、韓国で味わった「幸せ」はこの作文では語りきれないほど特別なものと断言できます。韓国に到着するとバスが待っていました。「バスの中に韓国人のメンバーが乗っているのでバディーを作って座ってください」と言われてバスに入ると、私と似たメガネをかけた女の子がいました。その子がまさに私にたくさんの幸せをくれた大切な友達です。  
最終日前夜にお別れパーティーをしたときに、3泊4日という短い間にも関わらず、別れに泣き、離れたくないとあんなにも強く思ったのは初めてでした。多くの人に支えられ、こんなにも素敵な経験ができた私は本当に幸せ者だと思います。これからも国際的な視野を持ち、たくさんの幸せを大切に生きていきたいです。この事業で出会ったすべての人々に「ありがとう」と伝えたいです。(高校3年生 C)
- ・ この経験をこれからの交流事業に活かし、また韓国へ行ける機会があれば、韓国語で「広島の平和」を世界に発信できるよう努力していきたいです。(中学1年生 D)

### 《活動の様子》



博物館見学(大邱広域市 大伽倻)



ダンス発表(「国際青少年デー」記念イベント)



別れの時間

## 「令和5年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第45回）」開催結果

### 1 目的

広島・長崎両市の児童生徒が交互に訪問し合い、平和学習を通じて平和意識の高揚を図るとともに、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育む。また、集団生活や体験学習を通じて、友情と親睦を深めるとともに、自主性や社会性を育てる。さらに、青少年リーダーとしての指導力や実践力を養う。

### 2 主催

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会  
(構成：広島市子ども会連合会(担当：安佐北区子ども会連合会)、広島市教育委員会)

### 3 期間

令和5年6月25日(日)～9月10日(日)  
(受入期間：令和5年8月3日(木)～8月5日(土))

### 4 開催地

広島市

### 5 参加者

広島市 45名(小学生17名、中学生4名、高校生5名、指導者19名)  
長崎市 34名(小学生11名、中学生4名、高校生9名、指導者10名)

### 6 年間の取組

平和のつどいについて、4年ぶりに広島市において長崎市の児童生徒と対面での交流を行った。

区分	日程	主な内容
結団式・事前研修会	6月25日(日)	結団式、事業説明、アイスブレイク
平和のつどい	8月3日(木)	歓迎式、アイスブレイク、プレゼント交換、平和学習
	8月4日(金)	慰霊碑黙とう、献花、折鶴献納、碑めぐり、資料館見学、市内散策、平和学習、キャンプファイヤー
	8月5日(土)	お別れ式
事後研修会	9月10日(日)	活動の振り返り

### 7 成果

- 両市の児童生徒が交流を行い、友情と親睦を深めるとともに、平和学習を通して平和への意識を向上させ、世界恒久平和の実現に向けた思いを強く持つことができた。
- 小・中学生の参加者は、三滝少年自然の家での集団宿泊や体験学習を通して自主性や社会性を培い、高校生の参加者はリーダーとしての指導力や実践力を養うことができた。

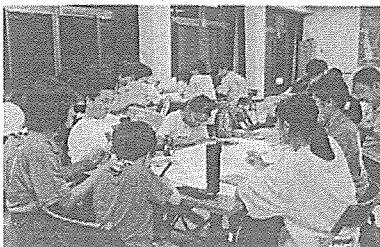
### 8 課題等

- 令和6年度は、長崎市での活動となるが、平和についての学びを一層深めることができる活動となるよう、事前研修プログラムなどの内容をより充実させる必要がある。

## 9 参加者の感想

- ・ 平和のつどいで感じたことは、広島市と長崎市が被爆都市として最初で最後になるように8月6日のことや8月9日に起こったことを世界に伝えていなければいけないということです。なぜなら被爆者の方が減っていき、原爆の事をより詳しく伝えていく人がいなくなっているからです。また、今、世界で戦争が行われている中、広島市や長崎市と同じような苦しみを経験してほしくないからです。(小学5年生 A)
- ・ 平和記念資料館をおとずれて、いろんな写真や遺品を見たとき、原爆の悲惨さが伝わってきました。亡くなった人も多くいて、生きのびた人も、その後、後遺症で苦しんだことを知って、原爆はとても恐ろしいものだと思ったし、やっぱり平和が大切だと感じました。また、同じ班だった長崎の子と原爆のことについて話すうちに、もっと長崎と広島原爆について知りたいと思いました。(小学5年生 B)
- ・ 平和記念資料館の見学で、戦争の恐ろしさや平和の大切さについて学びました。なくなったおじいちゃんは、入市被爆者です。直接話を聞いた事はないけど、おじいちゃんが見た光景を、資料館の資料から感じる事が出来て、より一層命の大切さを感じました。(小学5年生 C)
- ・ 平和のつどいで学んだ事をもとに自分のこれからの目標、広島課題などいろいろな事に気がつき、意識を持つことができました。なのでこれからも、広島に生まれた人間として平和のつどいでたくさん学んだ事を忘れず、語り継いでいけたらいいなと思っています。(小学6年生 D)
- ・ 平和記念資料館では、事前学習で調べたことをできるだけわかりやすく長崎の人や広島小学生に説明しました。資料館の中で友達が、「見ているだけで怖いってことは、ここにいた人たちはもっと怖い思いをしたんだね」と言いました。その言葉に私はとても共感しました。戦争をもう起こさないためにはどうしたらいいんだろう？平和な世界をつくるために自分たちにできることは何だろう？と考えさせられました。(中学1年生 E)
- ・ 平和学習では、皆で折り鶴アートを作ったり、意見を出し合ったりして、平和への意識を高めることが出来ました。市内散策の時には、皆が譲り合ってたくさんのお店をまわることができ、思い出を作ることも出来ました。この集団生活で学んだことをこれから、色々な所で生かしていきたいです。(中学1年生 F)

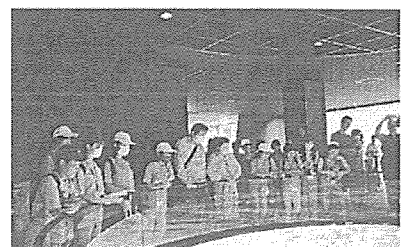
### 《活動の様子》



平和学習



慰霊碑前での集合写真



資料館見学